



「生団連ニュースレター」は、国民の生活・生命を守るという使命を追求する生団連の取り組みに関する最新情報を、日頃ご支援いただいている皆様にお伝えしています。

平成28年1月号
国民生活産業・消費者団体連合会

平成28年 年頭所感 会長 清水信次

明けましておめでとうございます。新年を迎えるにあたり、国民生活産業・消費者団体連合会を代表しご挨拶を申し上げます。

昨年は、過去に日本国家が大きな過ちを犯し全国民を苦境に追いやった先の大戦の敗戦から70年という大きな節目の年でありました。今の我が国の発展は、戦後の荒廃そして米国の占領下の中、国民の誰もが、“この日本を一日も早く復興させ、普通の生活を取り戻したい”という強い想いを抱きつつ、もがき苦しみながらも這い上がり、血の滲むような努力をした結果であることを忘れてはなりません。

現在の国民生活は、衣・食・住そして医療のどれをとっても世界で最高のレベルになり、平均寿命も世界一です。しかしながら、戦前・戦中・戦後の日本を生きてきた私から見ると、豊かになりすぎたせいか、若干タガが緩み人々の心は逆に貧しくなっているように思えてなりません。戦前の日本は、物質的には貧しかったですが、生活は今と比べるとはるかに潤いがあり、親子、友人、近隣との関係も和やかで、人間社会で生きている喜びと楽しみがありました。更に歴史を遡ると、幕末の日本において、我が国の将来を憂う多くの志高き志士たちの行動が原動力となり、今から149年前、明治維新が成し遂げられました。当時の志士たちは、己の命よりも我が国の将来をただ一途に思い行動を起こしたのです。私たちは、日本国民が元来持つこのような生き方や精神を再認識する必要があるのではないのでしょうか。

誰もが日本人に産まれて良かったと思える国家にするため、今こそ政官民が一体となり国家100年の大計を議論すべき時です。そして日本の将来を見据えるためには、世界の中の日本の立ち位置をしっかりと考えなくてはなりません。日本は人口減少社会を迎えておりますが、世界の人口は今や72億人を超え増加の一途です。それに伴い、水・食糧・資源の問題や環境問題、更には自然災害等、課題は山積しており地球的な視野で物事を考えていかななくてはなりません。大きな変革期である今、日本人の誇るべき精神を取り戻し、この国の将来のため一致団結して困難に果敢に挑戦していかなければなりません。

このような中、当連合会は、国民生活の安全・安定の確保と質の向上、関連企業の健全な発展への貢献を通じて、「国民の生活・生命を守る」という使命を追求し続けるという活動指針のもと、小さな枠に捉われることなく幅広い視野を持ち、事業者の利益ではなく生活者の利益を第一に会員一丸となって日本社会が抱える大きな課題である、「災害対策」、「食品廃棄問題」、「エネルギー問題」、「人口減少・超高齢社会への対応」という4つの課題に対し果敢に取り組みを進めているところです。

皆様には、引き続き本年も変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

以上

第5回人口減少・超高齢社会対策委員会

平成27年11月26日、東海大学校友会館にて、第5回人口減少・超高齢社会対策委員会を開催しました。

会の冒頭、事務局より活動の進捗報告と今後の活動計画について説明を行いました。今後の活動計画については、以下の点について議論を行い、進めることをご承いただきました。

◆買エルマンキャンペーン

買エルマンtwitterアカウントのフォロワーに対して、男性の買い物参加を促進する情報発信を、会員のリソース(商品・サービス・事業概要)を活用して行う。

◆アクティブライフ意見交換会

意見交換会のテーマを

第4回 食と健康

第5回 健康と予防 とする。

討議終了後、独立行政法人国民生活センターの宗林さおり理事より「子どもの事故・高齢者の事故」というテーマでご講演いただきました。子供と高齢者を守るために生活産業がどのような点に配慮すべきか、また生活者としてどのような点について注意すべきかを、実際に起こった事例をもとに、詳しく解説いただきました。



【講演】

子どもの事故・高齢者の事故

独立行政法人国民生活センター
理事 宗林さおり様



定例勉強会開催 ～ 野田 聖子 先生 ～



衆議院議員・元自民党総務会長 野田 聖子 先生

平成27年12月8日(火)に国際経済研究所と共催し、12月度定例勉強会を開催いたしました。今回は、衆議院議員の野田聖子先生にお越しいただき、「私が首相を目指す理由」というテーマでご高話いただきました。

現在の国内における人口の長期推移データを用いながら、日本が真剣に向き合っていかなければならない急激な人口減少問題についてお話されました。また、労働人口が減少していく中、ダイバーシティの必要性を女性視点からお話され、多様性を受け入れる労働環境整備の対策が急務であることを強くおっしゃっていました。

90名を超えるご参加をいただいた本会では、野田先生の今後の精力的な活動へ期待を込めて応援の言葉を届けられる方が多く見受けられました。

生団連は清水信次会長(株)ライフコーポレーション会長の発案で設立、「国民の生活・生命を守る」ことを使命とする団体です。会員は500超の企業、業界団体、消費者団体から構成され、日本の直面する諸課題解決に向け生活者視点で取り組んでいます。

【お問合せ先】

国民生活産業・消費者団体連合会 清水(栄)／宮田 ☎:03-3662-5240 ✉:jimu@seidanren.jp
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-6-2 小津本館ビル7階 URL:<http://www.seidanren.jp/>